

令和元年8月7日

竹刀検量等に関する規則改正への対応について
(令和元年6月25日付剣道競技専門部メール審議了の詳細確認)

全国高等専門学校剣道競技専門部
第54回全国高等専門学校体育大会剣道競技実行委員会

全日本剣道連盟の剣道試合・試合規則改正への対応については、上記の期日に案内(周知)しているところですが、第54回大会の安全、公平性のため、参加される選手、監督、コーチにおかれては、以下のことを必ず確認、準備の上、大会に出場して下さい。

1. 竹刀

- 竹刀の長さ、重さ、太さが適正である
- 破損及びささくれは無い
- 中結の位置(全長の約1/4)及び結びが適正である
- 各ピース(竹)間に著しい隙間がない
- 安全性を著しく損なう加工・形状変更がない

2. 剣道具

○小手

- こぶしと前腕(肘関節から手首関節の尺骨側(最長部))の1/2以上を保護している
- 小手指部および小指ぶとん部は十分な打突の衝撃緩衝能力がある
- 小指ぶとん部のえぐり(クリ)の深さは、小指ぶとん最長部と最短部の長さの差が2.5cm以内である

○面

- 面ぶとんは、肩関節を保護する長さがある
- 面ぶとんは、十分な打突の衝撃緩衝能力がある

3. 剣道着

- 剣道着の袖は、肘関節を保護する長さを確保している

4. その他(剣道具、剣道着、袴の着用について)

- 面紐の結ぶ位置は目の位置(高さ)と同じ位置(高さ)となっている

昨年度の全国大会において、面紐の結ぶ位置が高く(浅く)、紐が面ぶとん上部に掛かっている程度となり、面ぶとんにクセがついている選手が多く、審判長から指摘を受けました。面が外れやすく怪我を防ぐためにもより深い位置で結んで下さい。また、面ぶとんのクセは直しておいて下さい。

- 剣道着、袴には、所属する学校以外の学校名等が書かれていないものを着用している

(注意) 次年度の大会からは、上記、竹刀、剣道具等の点検については、個別に確認することになります。本大会(第54回大会)においても各人で確認するようにご協力をお願いします。